

今回の調査成果

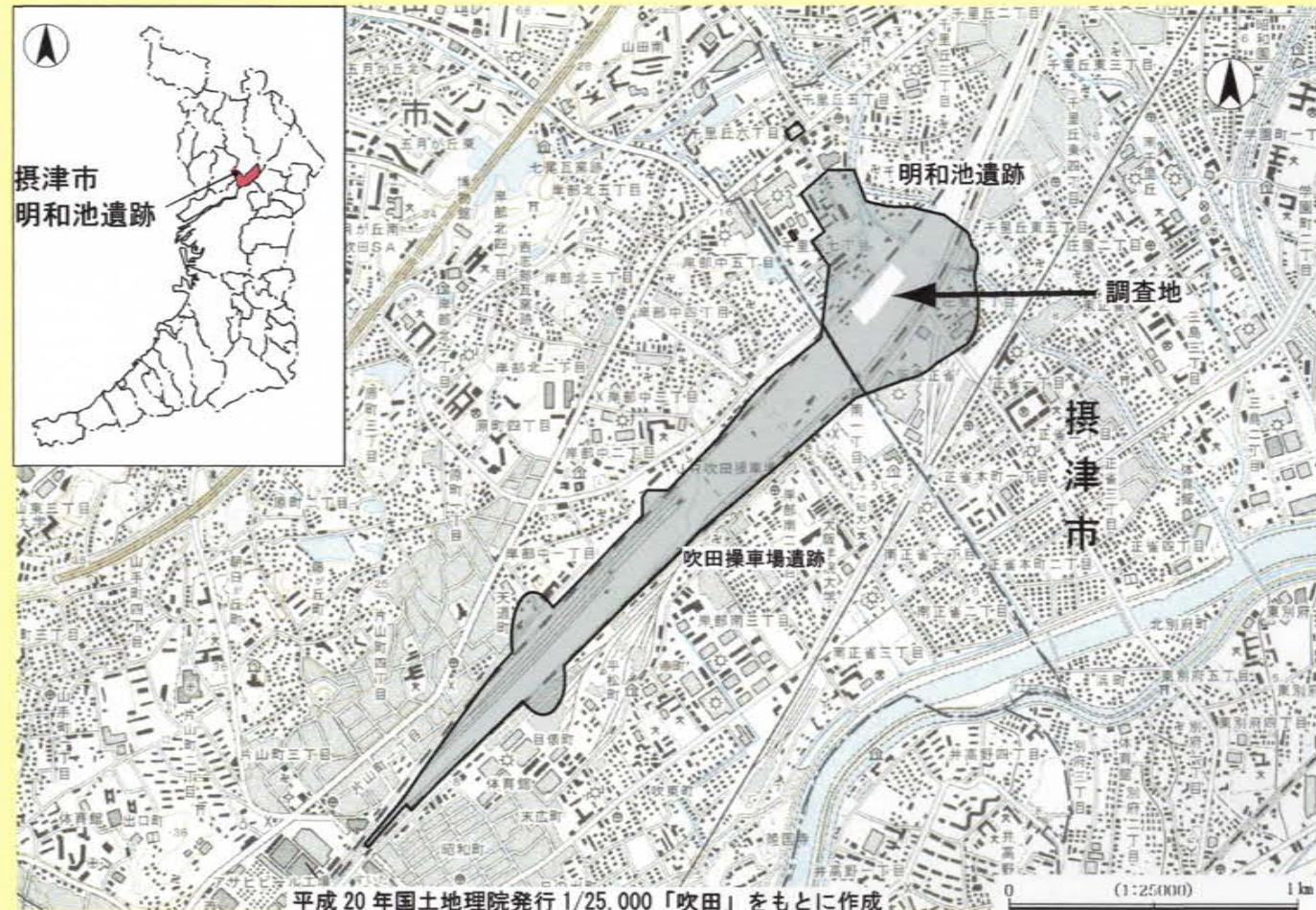
今回の調査では、山田川の前身と考えられる流路のほとりに営まれた弥生時代後期（今から約1800年前）のムラの跡がみつかりました。今までの調査で竪穴建物が6棟みつかりました。このうち3棟には、建物の周囲を外周溝と呼ばれる溝がめぐっていました。10区でみつかった竪穴建物は3棟で、そのうち竪穴建物4と6の2棟は外周溝をもつものでした。竪穴建物4の外周溝の一端は、流路に取りついており、流路に向かって排水していた様子がよくわかるものでした。また、竪穴建物6の外周溝は竪穴建物4の外周溝に取りつくように掘られていたことから、竪穴建物4よりは新しく建てられたものの、併存していた可能性が高いといえます。しかし、竪穴建物5はこれらの竪穴建物の外周溝が埋没した後に建てられましたが、外周溝を伴ってはいませんでした。一方、10区以外の調査区では、7区で外周溝を伴う竪穴建物2と、外周溝を伴わない竪穴建物3がみつかったほか、6区ではベッド状遺構を伴う竪穴建物1がみつかりました。

古墳時代の遺構は10区の170溝で、古墳時代後期（今から約1350年前）の遺物がみつかりました。

また、平安時代（今から約1100年前）の遺構は、2区と7区で平安時代の掘立柱建物2～4がみつかったほか、1区では畠の痕跡と考えられる溝群や、その付近にある52土器溜りからは黒色土器椀、土師器の皿や甕などがみつかりました。

一方、鎌倉時代（今から約800年前）以降は耕作地として利用されており、水田のアゼ（畦畔）や井戸などの遺構がみつかりました。

以上のように、今回の調査では、流路のほとりに営まれた弥生時代後期のムラの実態をうかがうことができました。



(仮称) 摂津市千里丘新町（7街区）中高層住宅建設事業に伴う明和池遺跡発掘調査

明和池遺跡発掘調査現地説明会資料

摂津市教育委員会
公益財団法人大阪府文化財センター
平成28年4月16日（土）

はじめに

摂津市教育委員会と公益財団法人大阪府文化財センターは、平成27年11月から明和池遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施しています。

明和池遺跡は、摂津市の北西部に位置する遺跡で、昭和8年にかつて庄屋1丁目に存在した明和池の底から弥生～古墳時代の土器が発見され、その存在が知られるようになりました。遺跡の大半は吹田操車場跡地内に位置し、今回の調査も吹田操車場跡地の再開発に伴って実施しています。

明和池遺跡におけるこれまでの調査では、弥生時代や古墳時代の竪穴建物や流路、奈良時代から平安時代の掘立柱建物、鎌倉時代から室町時代の畠や井戸などがみつかりました。遺物も弥生土器や須恵器をはじめ、墨書土器や墨書人面土器、土馬などがみつかりました。



(仮称) 摂津市千里丘新町（7街区）中高層住宅建設事業に伴う明和池遺跡発掘調査現地説明会資料

編集・発行 公益財団法人大阪府文化財センター
〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号
発行日 平成28年4月16日

竪穴建物4～6と171流路 9・10区



掘立柱建物2 2区



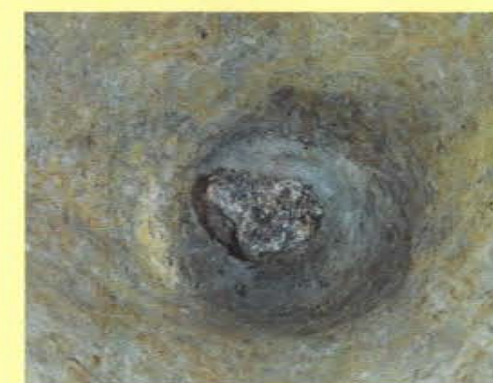
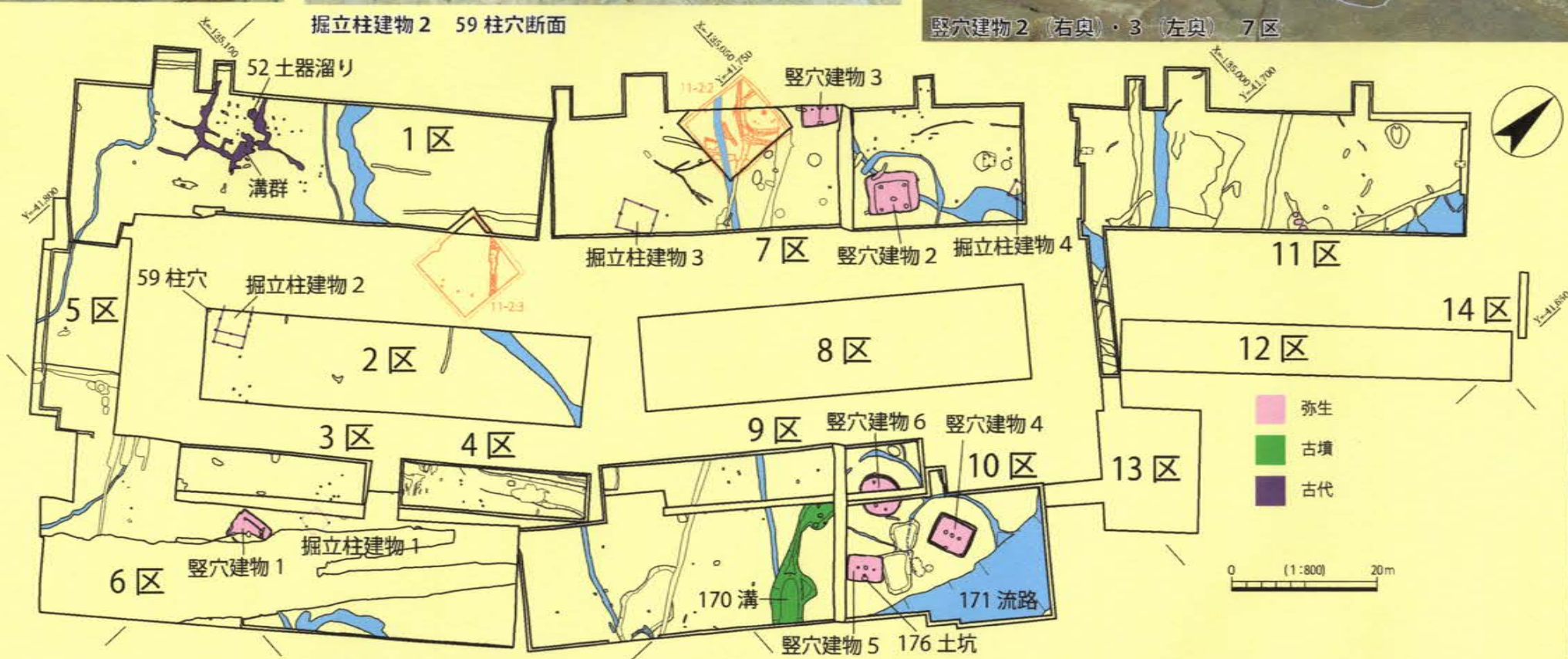
掘立柱建物2 59柱穴断面



竪穴建物2 (右奥)・3 (左奥) 7区



52土器溜り 1区



竪穴建物4 焼けた柱材



竪穴建物4 焼けた建築材



171流路からみつかった罎 10区



竪穴建物1 6区



176土坑



竪穴建物4 (左)・5 (奥)・6 (右) 9・10区